



平成 26 年 10 月 10 日

各 位

会社名 カップ・クリエイトホールディングス株式会社  
 代表者名 代表取締役会長 藤尾 益雄  
 (コード番号 7421 東証1部)  
 問合せ先 経理財務部長 小林 元樹  
 (TEL 048-650-5100)

## 第 2 四半期（累計）業績予想との差異、通期業績予想 の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

平成 26 年 4 月 8 日に公表した平成 27 年 3 月期第 2 四半期（累計）業績予想と本日発表の実績に差異が生じたので、その概要をお知らせするとともに、平成 27 年 3 月期の通期業績予想の修正及び特別損失の計上について、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 第 2 四半期（累計）業績予想との差異

##### (1) 平成 27 年 3 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想数値との差異

(平成 26 年 3 月 1 日～平成 26 年 8 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想(A)	45,880	680	710	500	12.60
今回実績(B)	43,360	780	905	△1,181	△29.53
増減額(B-A)	△2,520	100	195	△1,681	
増減率(%)	△5.5	14.7	27.5	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成26年2月期第2四半期)	49,767	218	199	△2,943	△74.73

##### (2) 差異の理由

第 2 四半期（累計）の業績につきましては、当社グループの主軸である回転寿司事業において再生が急務であると掲げ、既存店売上高の回復、コスト削減、また「安さ」から「品質重視思考」に舵を切り替え、商品アイテム見直しと品質向上に取り組んでまいりました。

しかし、顧客確保の企業間競争がますます激化する中で、当第 2 四半期末までにその効果を十分に引き出すことができず、売上高は予想を下回ることとなりました。

営業利益及び経常利益は高価格帯商品の投入による利益率の改善や仕入機能の集約によるコスト削減が図られたことから予想を上回ることとなりました。

また、当期純利益につきましては、後述するように当第 2 四半期累計期間で減損損失の対象となった店舗の固定資産について、1,794 百万円減損損失として計上したことから、

四半期純損失となりました。

## 2. 通期業績予想の修正

### (1) 平成27年3月期通期連結業績予想数値の修正 (平成26年3月1日～平成27年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 97,300	百万円 1,060	百万円 1,100	百万円 700	円銭 17.64
今回修正予想(B)	86,600	830	1,030	△1,230	△30.68
増減額(B-A)	△10,700	△230	△70	△1,930	
増減率(%)	△11.0	△21.7	△6.4	—	
(ご参考) 前期実績 (平成26年2月期)	93,366	△1,861	△1,886	△7,104	△179.04

(注) 今期は決算期の変更に伴い、13ヶ月の変則決算となります。

### (2) 業績予想修正の理由

通期の業績予想につきましては、第2四半期(累計)の実績及び最近の業績動向を踏まえ見直した結果ならびに当第1四半期連結会計期間末より、当社の連結子会社であったF. デリカッパ株式会社及び株式会社ジャパンフレッシュを持分法適用会社に変更したことにより、売上高、営業利益及び経常利益は、予想を下回る見通しになることとなりました。

また、当期純利益については、以下に記載します特別損失の計上により、当期純損失の見通しとなることから、通期の業績予想を修正しております。

## 3. 特別損失の計上

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社の保有する固定資産について将来の回収可能性を検討した結果、減損損失として1,794百万円を計上することとなりました。

これらにより、当期の特別損失の合計額は1,859百万円の見通しであります。

上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以上